

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400065		
法人名	社会福祉法人 金武あけぼの会		
事業所名	グループホーム ローズガーデン		
所在地	沖縄県沖縄市諸見里3-41-30		
自己評価作成日	平成28年2月5日	評価結果市町村受理日	平成28年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790400065-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成28年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・私達、グループホーム ローズガーデンは平成24年4月に開所し、ご家族を始め地域の皆さんに支えられ、4年目を迎える事が出来ました。又、併設施設に特別養護老人ホーム 森城があり、共に地域に根差したホーム作りを目指しています。 ・又、季節ごとの行事では、併設施設の森城と合同で開催するなど、賑やかな環境で行っています。 ・訪問歯科診療を毎週行っており、利用者の口腔内の環境に気を配り、健康面のサポートも充実しています。 ・毎月、栄養士に協力してもらい、利用者と共におやつ作りを行っています。 ・自立支援を実施し、水分、栄養、排泄、運動によるオムツゼロ活動に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体法人が医療機関であり、同一建物内の特別養護老人ホームの看護師と連携して、日常的に利用者の健康状態を相談し、急変時には対応できる体制がある。開設当初からの職員の定着率が良く、理念を職員と一緒に作成した結果、職員の意識に変化が見られ、日頃のケアに理念がより反映されるようになっている。利用者と一緒に毎日散歩し、世話好きの方にゴミ捨て等の役割を担ってもらうなど、職員は利用者一人ひとりの思いや力を見極めながらの支援に努めている。共用空間の環境を整備し、トイレは全ての便器の前と両サイドに肘置きをつけ、日中は全員トイレでの排泄を支援し、自立に向けて取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日：平成28年4月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝礼にて唱和を行っている。 ・常に、利用者の安楽を考え、行動している。 ・家族的な関わりを大切にしている。	理念は、「利用者の思いを最大限尊重」を掲げている。職員は、日々のケアを業務的に行うのではなく、家庭的雰囲気の中で利用者の思いや意向を確認することを支援の方針としている。管理者や職員は毎月のカンファレンス等で利用者の状況を確認し、個別支援を心掛け、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎月、諸見里婦人会が施設訪問し、利用者と一緒に踊りを楽しんでいます。 ・晴れた日には施設周辺の散歩を楽しみながら、近所の方と挨拶を交わしたり、又、スーパーでの買い物などで、レジ職員と顔なじみになる等交流を図っている。	毎年来訪する婦人会サークルやボランティアが、利用者と一緒に散歩等を行っている。玄関入口に設けている椅子に地域住民が座り、窓越しに利用者や話したりしている。法人全体で取り組む地域清掃に職員が参加し、福祉祭りに利用者の作品を出展しているが、利用者が地域活動等に参加する機会は少ない。	管理者は地域密着型サービスの意義を地域に理解してもらい、地域住民が気軽に訪れる、開かれた事業所を目指したいと模索している。今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所内に認知症に関するパンフレットを置いて、ご家族、来訪者へ提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・偶数月に会議を開き、サービス状況の報告や委員の方からのアドバイスであったり、意見を頂いたり、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、併設の地域密着型介護老人福祉施設と合同で開催している。委員として、利用者や行政職員、自治会長、施設の家族代表が参加している。会議は、事業所と施設の行事や活動状況、事故やヒヤリ・ハットの報告などが主となっている。	運営推進会議の構成員として、特養ホームの家族代表が委員として参加しているが、事業所の家族代表の参加も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・毎月、沖縄市高齢福祉課より、介護相談員による施設訪問であったり、生保担当者の利用者への定期的な訪問を受けながら、連携を図っている。	行政の生活保護担当者とは、毎月利用者に関する情報交換をしている。行政から若年性認知症の方の受け入れについて相談があったが、本人の状態悪化で専門機関対応となった。介護保険制度改正の説明会等は、法人事務局が参加して報告を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止、ゼロは施設目標の核であり、開所よりそれらの行為はない。 ・施設出入口に、これらの具体的な行為を掲示し、いつでも確認出来るようにしている。	施設全体の玄関は施錠されていないが、グループホームの出入り口は、利用者が自由に出入りできない対応になっている。リスク等については入居時に口頭で家族に説明している。同意を得て4名がベッド柵に鈴を付け、2名はセンサーをベッド足元で使用している。解除に向けて検討会を開催し、法人の身体拘束廃止委員会に報告している。	

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者への声掛け一つにも職員間で周知し、ケアの統一を図っている。又、ご家族に対しても認知症への正しい理解を求めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修を通じて学ぶ機会を得、周知できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ご本人やご家族に対し、契約に関する説明をしっかりと行い、理解、了解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族とのコミュニケーションを大事にし、常に遠慮なく意見が言える雰囲気作りを心掛けている。又、利用者へはさりげなく職員が尋ねたりしている。	利用者の要望等は、主に居室で聞き、「枕元に置く時計がほしい」「ラジオを居室で聞きたい」等に対応している。年2回の家族会や面会時、受診の待ち時間等に、家族が意見等を言いやすくする雰囲気作りを心掛けているが、殆ど出ない。毎月介護相談員が訪問して、利用者から話を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者が日頃から職員へ声掛けを行いながら、意見を聞く、言う、機会を設けている。	職員の意見は、毎月のミーティングで話し合い、聞いている。勤務体制についての職員からの意見はパート職員の採用に繋げている。嚥下機能の低下が見られる利用者の食事形態については、ミキサー食への変更等の意見が出され、日々のケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員が働きやすい環境整備や条件等を整える為の話し合いを代表者と管理者で行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々に応じた外部研修に参加している。		

沖縄県（グループホーム ローズガーデン）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・連絡会主催の研修会や集まり等への参加で他施設職員との情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の思いや不安、意向などを確認し、常に傾聴する姿勢を持つ事を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族が置かれている状況を把握し、確認しながら希望や要望などを受け止め、解決案を提示しながら、安心、納得を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人やご家族にとっての最優先解決課題を見定めながら、他のサービスも視野に入れ、提案、対応するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自己決定が出来るような支援を心掛けると共に、利用者と寄り添う生活環境整備に努めている。又、テレビ鑑賞やコーヒータイムなどでリラックスしながら過ごす時間を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人、ご家族との絆を断ち切らないように積極的に面会、外出などの提案を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族への協力があって故郷訪問が実現。又、若い頃からの行きつけの美容室へ行き、白髪染めたり、散髪などを行っている。 ・遠方からの友人、知人など歓迎し、馴染みの関係が途切れないようにしている。	利用者は、家族の協力を得て閉校予定の小学校の運動会や閉校式典に参加したり、敷地内の通所を利用している知人や職員として働いている甥を訪ねて会話を楽しむこともある。関係性は家族から聞いて把握し、教え子や元同僚が事業所を訪ねて来る交流も継続できるよう支援している。	

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の交流の機会を多く持たせるよう心掛け、レクリエーションや手工芸、人参の皮むき、もやしのひげ取りなど関わりの持てる場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約前、契約終了後も、本人、ご家族等の状況を確認し、他の社会資源へと繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中で、本人の過ごし方や習慣などを確認し、又、ご家族にもお話を伺い、情報を得よう心掛け、サービスに活かしている。	利用者からは普段の会話で、家族からは面会時等に思いや意向を聞いている。把握が困難な方は、表情や態度で汲み取るように努めている。利用者の意向は、毎日の散歩や食器の片付け等の役割支援につなぎ、個々の生活習慣を尊重しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や馴染みの暮らしを本人、ご家族から伺い、出来るだけサービスに取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常から利用者の心身の状況、認知度についても把握し、出来ることを見つけて少しでも取り組みに参加して頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護支援専門員を中心に、本人、ご家族、介護スタッフと話し合い、状況に即した介護計画書を作成している。	職員は、個別の介護計画を確認して介護記録を作成している。アセスメントは職員からの情報も得て、3ヶ月に1回モニタリングを実施し、見直しは状態変化時や更新時に行っている。サービス担当者会議には、本人や家族も参加して個別の支援内容を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録へ個々の状況を記載し、スタッフ全員が情報を共有、把握できている。又、日々の状態やご家族とのやり取りを支援経過に記載している。		

沖縄県（グループホーム ローズガーデン）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人やご家族の、その時の状況に応じ、共通のサービス以外にも臨機応変に柔軟なサービスの支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・馴染みの方であったり、通い慣れた病院、商店など、一人ひとりの地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・法人併設の森城に嘱託医がおり、状況に応じて状態を報告したり、又、かかりつけ医の病院や専門科への受診を促したり、連携を図っている。	協力医に変更した1名以外は、これまでのかかりつけ医を継続している。受診時は職員も同行して書面で情報を提供し、受診後は家族から口頭で、病院からは書面で報告を受けている。毎週訪問歯科を利用し、口腔ケアにも力を入れている。併設の特養の看護師が、定期的に健康管理面の支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・ローズガーデンには看護師配置はないが、定期的に法人併設の森城看護師が見守りに来てもらっている中、助言をなど貰いながら適切に対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・介護支援専門員が、入院先の地域連携職員との情報交換を密に行いながら、早期退院、受け入れ時期など調整を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に、ご家族へ終末期に対する意向を確認し、事業所内で出来ることを十分に説明し、了承を得ている。又、終末期への意向の際には、法人併設の森城への転床も視野に、ご家族と両施設の関係職員との話し合いをもっている。	利用開始時に、重度化や終末期について家族に説明し、看取りは実施しない方針を理解してもらっている。看取りを希望される場合は、同一建物内の特養ホームへの紹介などで配慮している。職員は、看取りについての法人内研修や外部研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・法人併設の森城看護師が中心になり、必要時には指導、助言を貰いながら日々のケアに努めている。		

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回、消防訓練を行っている。 ・消火器の取り扱い訓練なども職員周知出来ている。又、近隣住人にも参加声掛けしている。	昼夜を想定した避難訓練を2回実施し、1回は消防署が立ち会っている。地域への参加呼びかけを1ヶ月前から段階的に行い、近隣の事業所や住民の協力が得られている。食料や水、オムツ等は1週間程度を法人で備蓄し、栄養士が定期的に点検している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ケア実践時には必ず本人に意思確認し、同意を得ている。又、利用者の意思や思いを損なわないよう声掛けにも細心の注意を払っている。	職員は、利用者に穏やかに話しかけ、さりげなく対応している。爪切りや顔ぞりなど利用者本人ができることはやってもらい、出張散髪を利用して整容面も支援している。同性介助を基本とし、排泄の失敗時には誇りを傷つけない声掛けにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・常に声掛けを行う中で、利用者の意向を確認し、自己決定が出来る支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・自室で休みたい時やおやつを食べたくない時、お風呂に入りたくない時など、利用者の訴えを聴き、その日の状態を考慮しながら声掛け、見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・月に一度、出張散髪が訪問し、身だしなみの支援を行っている。又、定期的に爪切りや顔ぞりなど行い、容姿には気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々の食に合った形態を確認し、栄養バランスにも配慮した提供を行っている。又、月に一度、おやつ会を実施し、利用者と共に簡単な調理を行っている。	食事は、法人栄養士が利用者の希望を取り入れた献立を作成し、厨房で調理しており、3食とも配食である。苦手なメニューの場合は当日の変更も可能で、職員も同じ食事を摂っている。利用者は下膳等を行い、月1回のおやつ作りを栄養士と一緒に楽しんでいる。毎日、家族が食事介助に来る利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量を記載し、状況把握に努めている。水分摂取量1日1200～1500mlを目標に実現出来ている。		

沖縄県（グループホーム ローズガーデン）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、見守りや声掛け介助により、ケアが行われている。又、本人、ご家族の意向や義歯の状態により、毎週一回、訪問歯科による往診体制も整っており、その都度、ご家族立会いのもと治療が行われています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・法人全体でオムツゼロを目標に掲げて行っており、全利用者が日中、トイレでの排泄を行っている。	日中は、全員トイレでの排泄を支援し、夜間は、オムツ利用が1名いる。同性介助を原則とし、夜間等はシフト上対応できない場合があることを説明している。トイレの全ての便器には前と両サイドに肘置きが付き、安全面等に配慮されている。日頃の散歩等で下肢筋力を鍛え、座位保持や自立促進につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取量を一日、1200～1500ml設定し、様子を見たり、食物繊維補助食品などを活用して食事や飲み物に混ぜてあげたり、日中の活動量を増やしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴前には、本人も一緒に、着替えを準備したり、好みのコーディネートを楽しんでいます。 ・必ず、本人の意向を確認し、決して無理強いはせず、時間帯をずらしたり、曜日を変更するなどして対応している。	入浴は週3回、利用者が希望する時間に支援している。利用者も一緒に着替えを準備し、音楽を聞きながら入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる利用者はいない。入浴時はカーテン等で羞恥心に配慮し、過剰なケアにならないよう努め、浴室と整容室は、扇風機やヒーターで温度管理をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣や本人の睡眠状態に合わせて休息したり、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局からの薬剤情報から確認し、解らない薬剤があれば法人併設、森城の看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・歌を歌ったり、三味線を弾いたり、各々の趣味嗜好を確認しながらサービスに取り組んでいる。又、日々の散歩も楽しみの一つである。		

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・毎年、初詣に出かけている。 ・普段から日常的にお散歩を楽しんでおり、希望があれば、スーパーへの買い物にも出かけている。 ・不定期ではあるが、おやつ時に外食(バーガーショップ)を行っている。	散歩が好きな利用者が多く、日々事業所周辺や近隣の公園を散歩し、雨の日は4階の多目的ホールで散歩している。お菓子等の買い物や外食、初詣や浜下りにも出かけている。馴染みの美容室に通う利用者や職員と一緒に役所に出かける利用者もいる。外出が困難な方は、玄関先などでの外気浴で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人希望で買い物が出来るよう、家族へ説明し、少額の金銭を持たせることで了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人希望時に社内電話を使い、ご家族などに連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者の日常生活の写真や四季折々の工作を壁に貼るなど、見る楽しみにも工夫している。又、大きな窓があるので、常に心地よい光や風を提供している。	食堂兼居間はこじんまりとして、オープン型キッチンから間近に見守りができる造りになっている。食卓には利用者の名札を貼り、安心して指定席に座れるようにし、加湿器等で温湿度を調整している。居間で、テレビを見たり、コーヒータイムや職員との会話を楽しみながら過ごす利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った利用者同士を相席にしたり、フロア内にソファを置いてくつろいで貰えるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来るだけ、本人がこれまで使い慣れた物、装飾品などをご家族に持ってきてもらっている。(家族写真や手帳、カレンダー、人形等)	居室は和室と洋室があり、ベッドとタンス、エアコン、洗面台を備え、入口に大きな名札が貼られている。トイレを設置した居室もある。利用者はラジオや化粧道具、家族の写真等を持ち込み、画家の息子の絵を飾っている居室もある。週1回は居室の清掃と寝具の洗濯をし、年末の大掃除は家族の協力を得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内にトイレの設置があったり、台所がフロアと対面式であったり、一般的な家庭の雰囲気に近い構造になっている。又、空のコップを利用者自ら流しに持ってくるなどしている。		